

表現力育成のための授業実践

英語 第3学年

輪島市立南志見中学校

1 事例の概要

本校では、「確かな学力の向上につなげる『活用力』の育成～活用の場면을工夫した授業実践を通して～」を主題として研究を進めている。本校の生徒は、学習事項の整理や相互関連の把握、柔軟で多面的な思考や判断をやや苦手とする傾向がある。また、切磋琢磨し合って学び合おうという姿勢も不足している。そのため学習活動においては学習事項を整理・統合する活動、既習の知識・技能を活用しながら個々の考えを練り上げていく活動を通して、学び合おうとする姿を育成していくことが大きな課題となっている。そこで「活用力」が身についた生徒のイメージ像を作り、そのイメージに近づくために、単元オリエンテーション→授業実践→単元テスト→生徒の振り返り→教師の検証を組み入れた単元指導計画を作成した。そして、単元レベルでのPDCAサイクルを積み上げることで活用力の育成を図ることにした。

英語科においては活用力が身についた生徒のイメージを「初歩的な英語を読んだり聞いたりしてその概要をつかみ、それについて自分の意見や感想を英語で表現することができる」とし、3年生は「わたしたちの修学旅行記」「わたしたちにできる国際支援」「日米の文化の違い」「小学校から英語学習は必要か」の4テーマで「書いて発表する」活動を積み重ねてきている。発表の段階では、ポスターやピクチャーカード、ジェスチャーや音楽など伝える手段に工夫をもたせることで、発表者の意図することを伝えやすくしたり、QandAや意見交換を取り入れることで、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させるようにしてきた。

A-1 研究構想図

A-2 研究仮説と研究内容

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ① 目的地までの電車やバスでの行き方をたずねたり、教えたりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ② 日米の文化の違いについて書いたり、それについて友達と話し合ったりできる。
(表現の能力)
- ③ 日米の文化の違いや言語表現の違いについて、本文の内容を読みとることができる。
インタビューを聞いて具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができる。(理解の能力)
- ④ 「疑問詞+ to 不定詞」と「It's +形容詞+ for + to 不定詞」の文の形・意味・用法を理解している。
(言語や文化についての知識・理解)

(2) 指導上の工夫(視点)

- ① 日米の文化の違いを英文で伝え、意見交換するという活動を活用力育成のための活動とする。英文を書く際には、内容面の知識不足を補うために資料を準備したり、言語材料の不足を補うためにモデル文の提示を行う。発表ではペア→グループ→全体と生徒同士の学びの場を広げていく。
- ② スキット作りとそのペアによる発表練習では、友達と相互評価することでさらに質の高いものを目指すよう指導する。
- ③ Speaking Plus の本文の一部を変えたり、付け加えたりして口頭練習をする。

3 指導の実際

(1) 単元名 Unit 4 An American Rakugo-ka

(2) ねらい 日米の文化の違いについて工夫して友達と話し合することができる。(表現の能力)

過程	配時	学 習 内 容	評価(◆)と支援(◇)と留意点(※)
導入	5分	2. 日米の文化の違いを聞く。 3. 本時の課題を把握する。 日米の文化の違いについて、工夫して友達と話し合おう。	※映像を見せることで興味・関心を持たせるようにする。 ※本時の課題を提示する。
展開	35分	4. ペアで工夫しながら発表練習をする。 5. 2ペアずつで3カ所にわかれて発表しあう。その際質問や意見も言う。 6. 発表場所を変えてもう一度発表しあう。 7. 2ペアが発表し、全体で意見交換を行う。	※発表する側には絵や写真などを使って発表をするように、聞く側には積極的に質問や意見を言うように促す。 ◆日米の文化の違いについて工夫して友達と話し合することができる。(表現の能力)(ノート) ◇【評価規準に到達していない生徒】ノートを見ながらゆっくり発表したり、ペアで質問をするように促す。 ◇【評価規準に到達している生徒】発表を聞き、積極的に質問や意見を言わせる。
まとめ	5分	8. ワークシートで自己評価をする。	※友達の発表を聞くことで、いろいろな視点で日米の違いに気づかせる。

C-1 指導案

C-2 単元オリエンテーションと振り返り表

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 3年間の英語科のゴールを設定することで、各学年の到達目標がはっきりし、その到達度を確認しながら、生徒の着実な進歩を知ることができた。
- ② 単元オリエンテーション→実践→振り返りを通して、生徒自身が単元全体の構成を理解し目的意識をもって学習に取り組めるようになった。
- ③ 「書くこと」の系統的な指導を行うことで、生徒自身が「書くこと」への抵抗を感じなくなり、興味のあるテーマを与えることで「書くこと」の意欲が高まった。その結果、定期テストでの英作文問題は無解答率が0%となった。また、書いたものを発表し意見交換することで、生徒自身が相手の意見や考えを大切にするようになった。

(2) 課題

- ① テーマについて意見が書けない場合は、内容面の知識不足なのか、言語材料の不足なのか原因を見極めその支援の方法を考える必要がある。
- ② 「書くこと」と「話すこと」の意欲は育ってきているが、正しい英文を書いたり話したりという点では不十分である。イントネーションやアクセントに注意しながら音読練習を行ったり、語順や主語に注意した英文づくりに取り組ませるなどの対策をとっていかねばならない。